母校をたずねる

多感な時期 留学で刺激

埼玉県立浦和高校 6

エイズ治療・研究開発センター医師 西島健さん 1994年度入学

抗ＨＩＶ療法の研究に取り組む西島健医師＝東京都新宿区の国立国際医療研究センターで

埼玉県立浦和高校は、英国の名門パブリックスクール、ウイットギフト校と20年以上にわたり姉妹校交流を続けるなど海外に目を向けた教育に力を入れている。在学中に奨学金制度を利用してカナダに留学したヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）感染症の研究と治療に取り組む医師、西島健さん(37)＝1994年度入学＝に、若いうちに世界へ飛び出す意義を聞いた。【奥山はるな】

浦高に入学した頃、僕はバリバリの文系でした。司馬遼太郎の歴史小説を読みふけり、数学や英語の成績は平均以下。それなのに、医者になるなんて思いもしませんでした。

高校1年の春、教室の後ろに貼ってあった国際的な民間教育機関「ＵＷＣ」（ユナイテッド・ワールド・カレッジ）のチラシを見たことが転機となりました。留学は「お金持ちが行くもの」というイメージだったけど、学費が全額奨学金で賄われることや世界各国の高校生と知り合えることに魅力を感じました。

とはいえ海外に出たことはなく、英語も苦手だったので、選考試験の面接は「イエス」か「ノー」としか答えられない有り様。それでも運良く合格し、カナダにある全寮制の「ＵＷＣピアソンカレッジ」で2年間過ごすことになりました。

高校2年の秋、浦高の友人たちに見送られて成田空港をたち、意気揚々と現地に降り立ったものの、全く言葉が分からず「あなたの名前は？」という質問すら聞き取れなかった。現地に着いて3日間は徹底的に落ち込みました。でも「恥も外聞もなく、とにかくやるしかない」と気持ちを切り替え、辞書と格闘して英語を覚えました。

言葉が分かり始めると、今度はカルチャーショックの連続でした。折しもイスラエルのラビン首相が暗殺され、イスラエルから来た友人が「これから国はどうなるのか」と言って泣き続けていた。激しい内戦が起きていたスーダンの友人は「帰国したら軍隊に入って戦う」と話し、卒業後は消息が途絶えてしまった。日本で生まれ育った自分が、いかに恵まれていたかを痛感しました。

2年間の留学生活の間、こうした友人たちと「自分たちはどんな人間になるべきか、何をすべきか」と語り合い、医者になると決めました。直接、世界の人の役に立てる仕事だと考えたからです。帰国して筑波大医学専門学群に入学し、現在は薬害エイズでＨＩＶに感染した血友病の方々のために設立された国立国際医療研究センターのエイズ治療・研究開発センターの医師として働いています。

留学によって大検資格が得られたので、浦高は結局中退しました。帰国した時には既に同級生は浦高を卒業していたけれど、あいさつに行ったら先生方が「卒業式」を開いてくれ、懐の深さに感激しました。

そういえば、浦高では「高校は4年間だ」と言われていた。「浪人してもいいから10代の多感な時期を受験勉強だけに費やすな」という意味だと思います。僕もその通りの高校生活を送ったのかもしれません。

現役生にも、ぜひ海外に出てほしい。10代のうちに留学すると、気後れせずに世界の人と付き合える度胸がつくし、いろいろな価値観に触れて刺激を受けられます。はるか遠い国の人も「自分と同じなんだ」と実感してください。

にしじま・たけし　1978年生まれ。浦和高２年だった95年秋から２年間、カナダのＵＷＣピアソンカレッジに留学。帰国後は筑波大医学専門学群に進み、卒業後の2008年より国立国際医療研究センターのエイズ治療・研究開発センターに勤務。抗ＨＩＶ療法の研究に取り組み、14年度の北里柴三郎記念学術奨励賞（日本感染症学会）を受賞。

英名門校と国際交流

21年間で800人超参加

浦和高と交流を続けるウイットギフト校は、多くの卒業生がオックスフォード大やケンブリッジ大に進学する英国の名門パブリックスクール（私立のエリート校）。1995年、学校創立100周年を記念して国際交流を模索していた浦和高と、日本語学科の開設を企画していたウイットギフト校の希望が合致して交流が始まった。

ウイットギフト校では毎年、浦和高の3年生を受け入れる奨学生枠を用意し、浦和高からはこれまでに10人を派遣してきた。留学生は両校の卒業生となり、留学をきっかけにケンブリッジ大に進学した生徒も3人いる。教員の相互派遣や部活動を通じた短期的な交流も行っており、過去21年間で交流に参加した生徒は800人を超えるという。

浦和高の同窓会は3年前、海外を目指す生徒らを資金面で支える目的で奨学財団を設立し、留学する在校生や卒業生を支援してきている。また、浦和高は2014年度、国の支援を受けて国際社会で活躍する人材の育成を進めるSGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定も受けた。＝次回は20日に掲載します

交流に訪れたウイットギフト校の生徒らに弓道を教える浦和高校の生徒ら＝浦和高校同窓会提供

卒業生「私の思い出」募集

県立浦和高校（旧制含む）の卒業生の皆さんから「私の思い出」を募集します。300字程度で学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などをお書きください。卒業年度、氏名、年齢、職業、住所、電話番号、あればメールアドレスを明記のうえ、〒100―8051、毎日新聞地方部首都圏版「母校」係（住所不要）へ。メールの場合はshuto@mainichi.co.jpへ。いただいた「思い出」は、毎日新聞の紙面やニュースサイトで紹介することがあります。紙面に掲載の場合は記念品を差し上げます。